

府立富田林支援学校



テーマ：主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりに ICT 機器を活用して取り組む

概要

ICT を活用した「わかる授業」「主体的意欲的に取り組める授業」の推進

今年度、中学部 3 年の社会・理科、高等部 1 年の国語の授業を対象に、授業づくり支援を行いました。子どもたちが 3 つの学びを実現できるような学習活動を、評価の計画と関連づけながら単元計画の中にどのように位置づけていくか、また、それぞれの学びの過程において考えられる子ども一人ひとりの困難さに対して、ICT 機器等を効果的に活用しながらどのように指導・支援を行っていくかなどについて検討を行い、それぞれの教科において授業改善を図りました。最後に、授業事例を通してみえた授業改善のポイントを整理し、校内で全体共有を図りました。

* 今年度のパッケージ研修支援を通じた授業改善の取組みは、教育センター支援教育推進室の調査・研究と連動しています。

実施

スケジュール

Research

5月下旬 首席、授業者、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

6月21日(木) **全体会を開催**
テーマは「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

Plan

6月上旬～ 学習指導案の作成・検討

Do

<社会・理科>

5月22日(火) 事前授業・授業後の協議(1)
6月21日(木) 事前授業・授業後の協議(2)
9月27日(木) 事前授業・授業後の協議(3)
* 大阪大谷大学 教育学部 小田浩伸教授による授業観察及び指導助言
10月11日(木) 事前授業・授業後の協議(4)
10月25日(木) **研究授業・研究協議(1)**

<国語>

6月6日(水) 事前授業・授業後の協議(1)
6月27日(水) 事前授業・授業後の協議(2)
7月18日(水) 事前授業・授業後の協議(3)
9月19日(水) 事前授業・授業後の協議(4)
* 大阪大谷大学 教育学部 小田浩伸教授による授業観察及び指導助言
10月3日(水) 事前授業・授業後の協議(5)
11月7日(水) 事前授業・授業後の協議(6)
2月6日(水) 事前授業・授業後の協議(7)
2月27日(水) **研究授業・研究協議(2)**

Check & Act

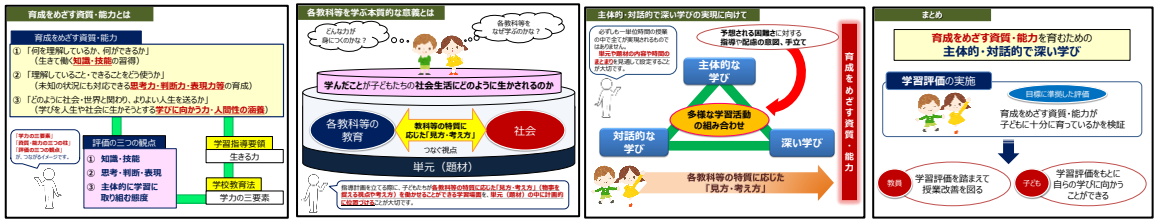
3月上旬 アンケート集約

全体会

6月21日(木) 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

① 支援教育推進室指導主事より「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

- ・3つの学びは、一単位時間の授業の中で実現するものではなく、単元のまとまりを見通して設定することを確認した上で、それぞれの学びを実現する際の留意事項とその具体例を示しました。



② 授業者より「研究授業に向けて」

- ・年間指導計画をもとに、現在取り組んでいる単元計画を取り上げ、具体的に目標や内容、主な教材、取組み状況について説明しました。
- ・これから三つの学びを実現するためにどのような学習場面を設定していくか、その中で ICT 機器をどのように活用していくかについて、自身の考えを発表しました。



研究授業

(1)

学年・教科： 中学部3年 「社会・理科」

単元名： 「防災学習」

「学びの文脈を大切に学習活動の設定」

研究協議のポイント
活動をすることがねらいではなく、目標達成のために何を学ぶのか、その内容を身に付けるためにどのような活動を展開するのか等、『つながり』を意識した授業展開の工夫について、協議しました。



研究授業

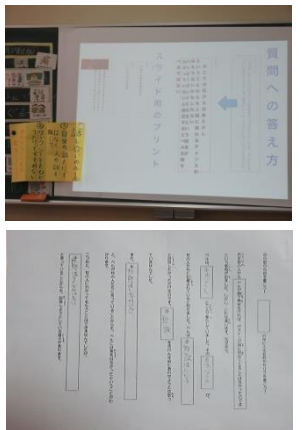
(2)

学年・教科： 高等部1年 「国語」

単元名： 「ディベートをしよう」

「ICT機器を活用した指導・支援の工夫」

研究協議のポイント
班別学習の場面を取り上げ、子ども一人ひとりがその学習過程において感じる困難さに対応するために、ICT機器をどのように活用していたのか等、具体的な指導・支援の工夫や今後に向けた改善点について、協議しました。



成果

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりにあたって>

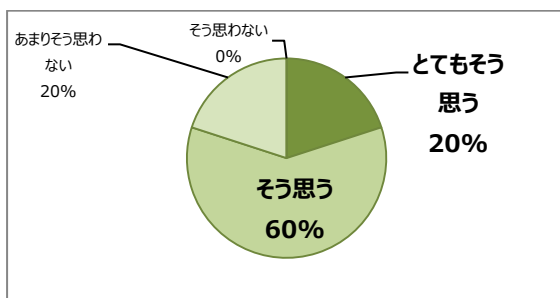
- ・子どもたちが学ぶことの意義や意味を理解できるよう、単元構成や授業展開を工夫する意識が高まりました。
- ・子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するためには、個々の実態に合わせた教材の工夫とともに、子どもたちが中心となる課題に向き合えるよう発問の仕方を考えたり、子ども同士の対話をつなぐ言葉かけをしたりすることが大切であることを確認しました。

<ICT 機器の活用にあたって>

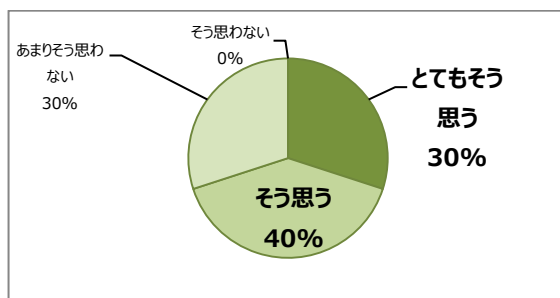
- ・自分の思いを表現する、既習事項を生かして考えをまとめる等の学習活動を行う際、タブレット端末や単焦点プロジェクター、ホワイトボード対応スクリーン等の ICT 機器を効果的に活用することができれば、子どもたちの学びがより深まるとの共通理解に立ち、教員間で具体的な活用方法等についても考えることができました。

アンケート
結果

① 学校のニーズに応えていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ 高等部では、特に、それぞれの授業の特性や、指導内容や評価についての研修があってもいいのではないかと思います。
- ・ 校内研修では、職員の目線に合わせて、もっと「ともに授業力の向上をめざしていきましょう」というスタンスでお話いただければよかったですと思いますが、教員の意識改革や普段の授業の見つめなおしの良い機会となったという声も多く聞いています。
- ・ 新学習指導要領への対応の時期で、教員の求める研修内容でとても参考になった。授業を担当した教員からの伝達で、全体の授業力の向上につながると感じた。
- ・ ICT 機器を使用して、児童・生徒にわかりやすい授業を行えるように校内で体制づくりを整えていかなければならないと思いました。パッケージ研修をおこなって、職員の意識も向上しています。
- ・ 今年度の本校の場合、若年教員が、授業において ICT 機器を活用し、授業を工夫していたことで、多くの教員への刺激となったと思う。